

平成 30 年度 学校評価書

平成 31 年 3 月 12 日
 浜松学院大学附属幼稚園
 園 長 山崎 亜佐美

1 本年度の重点目標

- ・ 支援を要する子への対応
- ・ 幼稚園将来構想計画

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

※ 評価は、A（十分に成果があった）、B（成果があった）、C（少しの成果があった）、D（成果がなかった）の数値で表す

自己評価	評価項目	具体的な取り組み	改善策	学校関係者評価委員の意見	評価
B	保育の計画性 ・ 園の教育課程および学年別指導計画を作成する。 ・ 指導計画に基づいた環境構成を行う。 ・ 自分の保育を日々振り返って反省と評価を行い次の計画に生かす。	・ 学年内で月案や週案の話し合いをし、副担任にも伝えて保育に望んだ。 ・ 教職員が保育内容、保育支援、個別支援、園運営について長短期で計画を立て実践した。 ・ 子どもの発達や育てたい力を見通した振り返りができるよう全体や学年での話し合いをする。	・ 学年内での定期的な話し合いを持つ。また、3年間を見通した計画を立案し共通理解していく。 ・ 短期的（日々の保育）、長期的（1年間・在園中）の保育計画を見通すことができるように教員が話し合い、意識や内容を共通理解する。	・ 学生を連れて保育見学に来た際、教員が教材準備をよくしていることが感じられる。 ・ 保育の無償化を見据え、幼稚園は幼児教育を徹底して行うことを明確にして園独自の魅力ある教育の追及をし、保護者がそれを良いと感じることができるようにしていく必要がある。	A

	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援を要する子 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前に親子面談を行って個別支援計画を作成。年度当初からより適切な援助ができるようにした。年間を通じ、成長に合わせた課題を保護者、ケースによっては専門機関とも確認し合いながら、支援方法を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子に合わせた個別対応や情報を、関係教員が共有できるよう、事例検討会や資料配布を引き続き行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士の環境で様々な刺激を受けて成長できることがたくさんある。個々に合わせた発達を促す支援をしてくれることは、園の魅力となる。 ・個別面談、個々に合わせた支援や環境設定を今後も継続して行って欲しい。 ・様々な園児や家庭環境に合わせた支援ができると良い。 	
<p style="text-align: center;">B</p>	<p style="text-align: center;">保育の実践力と環境設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康と安全を意識している。 ・子どもの衛生環境に配慮し病症の感染予防に努める。 ・子ども一人ひとりの思いや発見を大切にしながら活動を進める。 ・発達に応じた保育活動をし、子どもは満足感や達成感を感じている。 ・子どもの実態や状況に即した環境構成をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師一人ひとりが危機管理意識を持ち、常時安全な生活を心掛ける。 ・園内の安全な生活の約束を、視覚教材を使って園児に周知する。 ・子ども一人ひとりの性格や発達に合わせた対応をしている。どの子にも、公平に愛情を持って接するようにしている。 ・環境構成、教材作りは、考えたり試したりする中で、子どもの様子や育ちを見極めながら行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全、衛生に関する生活習慣の自立を促し、園児が自ら意識して落ち着いた生活や感染予防ができるようにする。 ・教師一人ひとりがどの子にも目をかけ、様子を伝え合うことで、園全体で子どもを見ていく意識を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園は安心安全が絶対条件である。その条件が揃わないと保護者が子どもを預けようと思わない。 ・子ども主体、子どもの安全第一の意識が教職員に浸透している。 ・保育環境面への投資は、園児確保において重要である。 ・自然災害に備えて、定期調査や老朽化対策は必須である。 ・家庭ではなかなかやることのできない活動に取り組んでくれた。子どもの可能性は無限だと感じる事ができた。 ・子どもに合わせて柔軟な対応をしている。 	<p style="text-align: center;">A</p>

<p style="text-align: center;">B</p>	<p>教師の資質とチーム力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師としての能力、姿勢、義務を果たしている。 ・決められた役割や仕事は責任を持って実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員として、園児とのかかわりに責任と喜びを持ち、園児第一の考えを持って保育にあたっている。 ・日頃から自分の感性を磨き子どもへの共感性を養う努力をする。 ・主担任と副担任、補助教員が保育に関する視点を共有できるよう短時間でも話し合いの時間を持つ。 ・与えられた職務、役割に責任を持ち行動するよう心掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他学年、他クラスの園児についてもできるだけ把握し理解したい。園児事例検討会参加や資料配布により、全教員が情報共有する。 ・教育、保育活動に関して幅広く興味関心を持ち、教師としての感性や人間性を高める。 ・それぞれの教師が共同でクラス運営、園運営にあたっているという意識を持ち職務に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの教員の良さが保育の中に表れていて良い。 ・教員の質向上と働き方改革の兼ね合いが懸念されるが、質の高い人材、長期間継続勤務できる教員の確保が大事である。 	<p style="text-align: center;">A</p>
<p style="text-align: center;">B</p>	<p>保護者への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級通信で子どもの様子やクラス集団の成長とその意味を伝える。 ・個人面談やクラス懇談会は伝達内容をあらかじめ書き留めて伝え、意味あるものとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子を伝える際、保護者の気持ちを汲み取りながら、伝え方に配慮した。良い表れや大事なことを伝えるように心がけた。 ・園生活での注意事項や、幼稚園と保護者間の取り決めを確認するため「入園（在園）に伴う確認事項」を作成し、保護者の意識付けを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級通信はわかりやすい内容になるよう意識し、相談したり読み合ったりして書く。 ・保護者が知りたいクラスの様子や成長の姿を伝えることができるようにする。 ・問題に対しては、迅速かつ丁寧に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他園に比べて、おたよりが多く驚いた。個々のおたより帳や学級通信は、園の様子を知ることができありがたい。保護者が園に足を運ぶ回数が少なくても園生活が分かる。 	<p style="text-align: center;">A</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの意見や要望を聞き入れ的確な対応をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度に行った『幼稚園運営に関する意向調査』結果を受け、預かり保育時間においての課外教室（体操教室）の開講、運動会・発表会のDVD販売を取り入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の意見や要望に耳を傾け、子どもにとってどうか？を第一に考え、対応をする。 		
B	<p>地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園に対する問い合わせや訪問者に正確な対応ができる。 ・子育て支援の場や機会の提供を地域へ発信する。 ・地域の人々と挨拶や会話を交わす。 ・地域の自然や施設、人を必要に応じて利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園内の行事やシステム、未就園児対応に関する情報の資料を配布、説明をして全教職員が共通理解する。 ・毎週木曜日の「どんぐりクラブ」の充実を図り、近隣地域の親子が心身ともに解放しながら楽しめるような企画を提供している。 ・送迎ボランティアの方々を園行事に招待し、園の活動を知ってもらったり交流を図ったりした。 ・地域資源や機関を把握しきれていない。 ・社会情勢や幼児教育に及ぼす影響について考慮した保育を行っているが、自然物を取り入れた保育環境については課題があ 	<ul style="list-style-type: none"> ・来客や電話はどの教職員も誠実に対応できるよう、情報の共有や資料の熟読を心掛ける。 ・地域の未就園児親子について、教員が直接かかわり話を聴いていくことで、親の育児不安軽減を図る。 ・登降園の際や園外に出かける時は、公共のマナーやルールを守る意識を持たせ、地域の人々と気持ちのよいかかわりを持てるようにする。 ・地域の人的資源を発掘・活用していく。 ・園内外の身近な自然環境を見直し、保育に取り入れようとする意識や考えをあらたに 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域在住親子への支援が、入園につながるようにしたい。 ・地域環境（物的・人的）をもっと取り入れていくと良い。 ・地域には園児の活動内容に精通した人材もいるので活用して欲しい。 ・住吉自治会主催の文化展に、引き続き園児の作品出展をして欲しい。 	A

		る。	する。		
B	<p>研修への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会では自己課題を明確にして積極的な参加をしている。 ・園内研修は、各自が意見を述べるができる場にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育に役立つ研修会や、子どもの理解と支援につながる勉強会を提示し、職員の参加を求める。 ・要支援児について、事例検討会を定期的に行い、関係する職員が参加し意見交換を行った。 ・年間を通じ、保育や関連する専門書を読んで知識を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加した外部研修について、教員間で内容や知識を共有、保育で実践できるようにする。 ・発達支援について検討していくほどに、更なる専門知識の習得や具体的な支援方法の検討実践が必要である ・各々の知識、経験を他教員に伝えること、他教員から報告を聞き各クラスの実態に合わせて実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が専門書を読んで勉強していることは、必要であり大事である。 	A
B	<p>外部アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園に行くことを楽しみにしている。 ・規則正しい生活を送る。 ・人とかかわる力が育ってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを一人ひとり温かく受け止め、楽しく安心した生活を作る。 ・教師や友達との楽しい心の交流を様々な場面で体験させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・回答率が前年から7%下がり90%であった。項目別選択の「あまりあてはまらない」「いいえ」の少数回答に潜在する気持ちがあることを自覚する。 ・日々の子どもの姿から心の内を把握し、対応を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの自由記述から、概ね教員に信頼を寄せてくれていること、教員が子どもに丁寧にかかわっていること、適切な援助がされているのが分かる。 	A